

会 議 録

会議の名称		平成 29 年度第 1 回つくば市公共交通活性化協議会		
開催日時		平成 29 年 5 月 30 日 開会 15:00 閉会 17:00		
開催場所		つくば市役所 6 階 全員協議会室		
事務局（担当課）		都市計画部総合交通政策課		
出席者	委員	石田委員，塙委員（代理：岡崎様），勝家委員，新井委員，平井委員，上野委員，瀬戸下委員，松橋委員，吉本委員，澤島委員，武藤委員，寺門委員，小林委員，浅野委員，吉場委員，星野委員，高野委員，沼尻委員（代理：鈴木様），田中委員，大澤委員，江戸委員，高巢委員，宮崎委員，小原委員，栗原委員，長島委員		
	その他	なし		
	事務局	中澤課長，中山課長補佐，細谷係長，名田係長，渡辺主任		
公開・非公開の別		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	1 名
非公開の場合はその理由				
議題		<ul style="list-style-type: none"> ・平成 28 年度事業報告について ・平成 28 年度歳入歳出決算について ・平成 29 年度事業計画(案)について ・平成 29 年度歳入歳出予算(案)について ・つくば市公共交通活性化協議会規約の改正について ・まつりつくば 2017 開催日における「つくバス 1 日乗車券」料金減額について ・平成 28 年度つくバス，つくタクの利用実績について ・交通体系の改編について 		

様式第 1 号

会議録署名人	—	確定年月日	平成	年	月	日
会 議 次 第	1	開会				
	2	委嘱状交付				
	3	挨拶				
	4	委員紹介				
	5	役員選出				
	6	事務局紹介				
	7	議案				
		議案第 1 号 平成 28 年度事業報告について				
		議案第 2 号 平成 28 年度歳入歳出決算について				
	議案第 3 号 平成 29 年度事業計画(案)について					
	議案第 4 号 平成 29 年度歳入歳出予算(案)について					
	議案第 5 号 つくば市公共交通活性化協議会規約の改正について					
	議案第 6 号 まつりつくば 2017 開催日における「つくバス 1 日乗車券」料金減額(案)について					
	報告案件 1 平成 28 年度つくバス, つくタクの利用実績について					
	報告案件 2 交通体系の改編について					
8	その他					
9	閉会					

<審議内容> ○：委員 ●：事務局

1. 役員選出について

委員間の互選により, 下記のとおり役員が選出された。

- ・委員長 : 石田委員
- ・副委員長 : 埴委員, 瀬戸下委員

・監事 : 吉本委員, 吉場委員

1. 平成28年度事業報告について

●事務局: 当日資料に基づいて, 平成28年度事業を報告。

○委員: 内容に関する質問, 意見なし。

2. 平成28年度歳入歳出決算について

●事務局: 当日資料に基づいて, 平成28年度歳入歳出決算の内訳を報告。

○委員: 内容に関する質問, 意見なし。

○委員: 平成28年度つくば市公共交通活性化協議会監事より, 会計監査により, 決算書のとおり相違なく適切に処理されたことを認める旨を報告

○委員: 会計監査報告に関する質問, 意見なし。

3. 平成29年度事業計画(案)について

●事務局: 当日資料に基づいて, 平成29年度事業計画説明案を説明。

○委員: 筑波地区の田中にバス停を設置してもらうよう以前に要望しているが, まだ実現していない。また, 筑波地区の交通網の起点は, 商業圏, 文化圏がある北条にあることが望ましいと考えている。

○委員: 荃崎地区の森の里団地は, 現在団地の入り口にバスが停まっているが, 団地の出口に急な坂があることもあり, 停留所から自宅に買い物荷物を持っていかえることが難しいという要望が強くある。団地の中までバスに入ってきてほしい。

●事務局: いただいた要望を受け止めながら進めていきたい。本年度, 公共交通の要望などを各地からうかがう懇談会を催すので, 地域の生の声を聴きながら, よりよい交通を目指していきたい。

様式第1号

○委員：本年度の幹事会について、適宜開催するという記載があるが、どの程度を想定しているか？

●事務局：各活性化協議会の前にそれぞれ開催することを想定しているが、議論の進捗状況と併せて検討する。

○委員：議案第3号2ページ目中段に、交通拠点という言葉がある。この言葉は、つくば市公共交通網形成計画内に使用されている交通結節点という表現と同じものか？

●事務局：基本的に同じ用途である。ただの乗り継ぎの場とするだけでなく、バス待ち環境など、整備の仕方を含めて検討していくという意味で事業計画には交通拠点と記載している。

4. 平成29年度歳入歳出予算(案)について

●事務局：資料に基づいて平成29年度歳入歳出予算案を説明。

○委員：案に対する意見・質問なし

5. つくば市公共交通活性化協議会規約の改正について

●事務局：資料に基づいて平成29年度歳入歳出予算案を説明。

○委員：案に対する意見・質問なし

6. まつりつくば2017開催日における「つくバス1日乗車券」料金減額について

●事務局：資料に基づいて料金減額案を説明。

○委員：案に対する意見質問なし。

7. 平成28年度つくバス、つくタクの利用実績について

●事務局：資料に基づいて平成28年度利用実績を説明。

様式第1号

○委員：市の負担額は、つくバス・つくタクとも平成27年度に対して平成28年度は増えている。平成29年度に関して、先ほどの議案第3号では、つくタクについては台数を増やし、予約センターのオペレーターの増員を図ると書いてある。市の負担額を市としてどの程度許容するつもりがあるのか（平成28年度並み、平成29年度は増えてもいい、平成27年度程度まで戻したい等）。

●事務局：市の負担額については、平成29年度はつくタクの車両増大など、経費が膨らんでいる。ただし、つくタクについては、予約センターに電話が繋がらない、予約がとれないという課題がある。まず、予約がとれるように改善するために予約センターの体制強化、そして、車両の増大をしている。

ただし、このままの市負担額のままでは財政的に厳しいということも認識しているので、交通体系の見直しの中で検討していければ、と考えている。

●事務局：特につくタクについては、対処療法として、とりあえずやらなくてはならないことに着手している状況である。今年度委員に協議いただいて、どのような改善策がでてくるのか、検討をいただきたい。ただし、市負担額を減らすことについて、運賃収入だけで期待することは難しいところがある。

8. 交通体系の改編について

●事務局：資料に基づいて公共交通改編の基本方針とスケジュール案を説明。

○委員：改編のスケジュールについて、平成30年度の下期に第1期の改編をして、平成31年度上期に第2期の改編をするということである。通常こういった大きな改編は、こまめにおこなわず、一回でおこなうのがセオリーだと思っている。

●事務局：つくば市としては、まず平成30年度秋を目標にして、今まで活性化協議会の中でも検討事項として上がってきている北部シャトルの輸送力の増強といったことを実施したい。ただし、大きな改編については、人の移動動向が変わる4月に合わせることで、公共交通機関として望ましいと考えており、今のところ2段階に分けている。

○委員：スクールバスとつくバスの連携について、つくば市の考え方を教えてもらいたい。

●事務局：現在、春日学園でスクールバスが運行している。来年度になると、秀峰筑波学園で運行が始まる予定である。つくバスは、第一の役割として周辺地区から中心地区へ、通勤通学を目的とした乗客を運ぶということを前提にしている。そこにスクールバスと同じ動き方を組み込むと、この動きができなくなってしまうため、つくバスとつくタクは役割を分けたいと考えている。

○委員：北海道の事例では、通勤用バス・通学バス・病院バス・路線バスをうまく組み合わせている事例もある。そういった事例も参考にしてほしい。

○委員：つくタクの利用実績について、予約のお断りが平成27年、平成28年ともに1,000件程度ある。その一方で、相乗り率は、両年度とも市全体で1.7人ということであるが、なぜ相乗り率が低いのに、予約を断られるのか疑問である。お断り件数が高い地域は、相乗り率も高いといった相関関係はあるのか。

●事務局：相乗り率については、先に予約が入っている人のルートに、時間帯や方向の問題で、うまく組み入れられなければお断りということになってしまう。予約センターも効率的な配車に苦心をしているが、現状市民の行きたい方向と時間帯が意外とバラバラで、なか

なかうまくいっていない。

お断りと相乗り率の相関は、分析したデータがない。谷田部地区は、車両台数が多く、予約件数も多いので、相乗りがしやすいことがわかっている。

○委員：つくたくは高齢者が多く利用している。イメージとして、高齢者がつくたくを自家用車的に使っているのではないかと思うところだが、多い人でどれくらいの頻度で使用をしているのか？

●事務局：利用者一人当たりの利用回数は、平均で年間24回程度となっている。片道で1回というカウントをしているので、月1回ということになる。

○委員：節度ある使い方をしていると感じた。お金がかかるから事業としてダメだということではなく、委員で知恵を絞って、よりよい形を追求していくことができればと思う。